

登録コード	UAF26500	開講年度	2026				
授業題目	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）					担当教員	篠田 菜々
						副担当	向井 秀文
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【研究科共通】自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。					⇔	専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる。
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる。
	【心理・長野臨床以外】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					⇔	①基本的な精神症状について述べるができる。②主な精神医学的検査とその意義について説明できる。③精神科診断の方法について述べるができる。④代表的な精神疾患の概念、疫学、症状、診断、治療、転帰・予後について説明できる。⑤心理臨床・教育臨床の観点と精神医学の観点の異同について論じることができる。
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理・長野臨床】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる。
	【心理・長野臨床】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					⇔	①基本的な精神症状について述べることができる。②主な精神医学的検査とその意義について説明できる。③精神科診断の方法について述べることができる。④代表的な精神疾患の概念、疫学、症状、診断、治療、転帰・予後について説明できる。⑤心理臨床・教育臨床の観点と精神医学の観点の異同について論じることができる。
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					⇔	専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる。
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					⇔	①基本的な精神症状について述べることができる。②主な精神医学的検査とその意義について説明できる。③精神科診断の方法について述べることができる。④代表的な精神疾患の概念、疫学、症状、診断、治療、転帰・予後について説明できる。⑤心理臨床・教育臨床の観点と精神医学の観点の異同について論じることができる。
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。					⇔	精神医学に関する知識・技能を、教育・医療・福祉領域などの現場で展開できる。
(2)授業の概要	将来、心理相談業務、教育相談業務に携わることを志す者を対象に、相談業務に必要な精神医学について講ずる。授業は、講義と演習で構成される。精神医学の歴史や課題、精神疾患の評価や治療方針について理解ができるように精神疾患の古典的および今日的なトピックについて受講者にレポートを課し、その発表を通じてより深い学びの機会を得るよう進めていく。担当教員が精神科医師としての実務経験を活かして講義を行う。						
(3)授業計画	第1回：精神医学の歴史と現在の課題 第2回：精神疾患のみかたと診断 第3回：薬物療法 第4回：統合失調症 第5回：双極症、抑うつ症 第6回：不安症、強迫症 第7回：心的外傷及びストレス因関連症、解離症 第8回：身体症状症、食行動症・摂食症 第9回：神経発達症 第10回：器質性精神病 第11回：物質関連症 第12回：神経認知障害 第13回：睡眠障害、てんかん、パーソナリティ症 第14回：チーム医療・授業アンケート ＊期末試験の有無：レポート課題提出あり						
(4)成績評価の方法	・授業での課題発表 60% ・授業後のレポート課題 40% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	「授業での課題発表」「授業後のレポートへの取り組み」においてそれぞれの評価割合が6割以上であれば「水準にある」,7割以上であれば「やや上にある」,8割以上であれば「かなり上にある」,9割以上であれば「卓越している」と判断する。						
(6)事前事後学習の内容	授業は、受講者の発表、講義の流れで実施する。したがって、受講者は各回の授業テーマに関連した課題を発表資料としてまとめる必要がある。						

(7)履修上の注意	・授業で紹介される事例については授業外で口外しない。守秘義務を守ること。 ・授業内容の不明な点を調べる，復習する，紹介文献を熟読するなど，自発的学習を求める。 ・臨床心理学コース以外の学生は，受講できない。
(8)質問,相談への対応	・担当教員：篠田菜々 ・連絡先：向井秀文（mukaih@shinshu-u.ac.jp） ＊非常勤講師による授業のため、連絡先は向井とします。
【教科書】	指定しない
【参考書】	適宜紹介する